

ビザなし交流通信

交流再開の風 今年こそ

【連載】北方四島交流インタビュー

北方四島へのデトックス旅、ロシアで販売開始！？

出発前に「パシジム！」ロシア人のお約束、知っていますか？

【発行】
北方四島交流北海道推進委員会

☎ (011)221-3340

✉ 004@vizanashi.net

取材協力

日ロ交流団体
ビザなしサポーターズたんぽぽ
代表：本田幹子さん（左）
谷内グロリアさん（右）

北方四島交流インタビュー

交流再開の風 今年こそ

ロシアによるウクライナ侵略の影響などで、2020年から中断している北方四島交流事業。事業を支えてきた人たちは今、何を思うのか。話を聞きました。

「今年こそビザなし交流再開の風で、相互理解のわた毛をもう一度飛ばしてほしい」

日ロ交流団体ビザなしサポーターズたんぽぽ代表の本田幹子さん（67）
「根室市」は、会名の「たんぽぽ」にちなみ、そう願っている。

北方領土に住むロシア人と会えなくなってきたら、お互いにSNSで近況を報告しあい、今年の元旦にも新年を祝うメッセージが届いた。「時間をかけて築いた信頼関係は、簡単には揺るがない」と信じる一方、ビザなし交流が中断して既に5年が経過し、空白期間の長期化に焦りは隠せない。

次ページへ

市民で歓迎を

「ダブロ・パジャラ
ヴァチ・ヴ・ゴラド・
ネムロ（ようこそ根室市
へ）」「ダ・スヴィダー
ニヤ（さようなら）」。
そう記した旗を手に、交
流船で往来するロシア人
を根室港で出迎え、見
送ってきた。

歯舞群島志発島元島民

隣人同士

2世の本田さん。四島訪
問時にロシア人が民族衣
装姿で迎えてくれたよう
に「根室の人も歓迎して
いることを形で表した
い」と考え、2006年
に市民有志でたんぽぽを
結成。それ以降、自由訪

顔が見える関係に

問や北方墓参も含め毎年
50回以上港に立ち続けた。
ロシア人の根室滞在中、
お互いの思いをざっくば
らんに伝えあうための夕
食会を何度も開催。食事
を囲みながら歌や踊りを
披露しあうと、「日本人」



▲根室港でロシア人を見送る谷内さん（右）
（たんぽぽ提供）

「ロシア人」ではなく、
その人の名前や顔、性格
が見えてきたという。本
田さんは「隣接地域の住
民同士が顔をつきあわせ
ることに大きな意義があ
る」と強調する。

古里への愛 世界共通

メンバーの一人の谷内
グロリアさん（64）はチ
リ出身。夫が元島民2世
だったこともあり、たん
ぽぽの活動に参加。簡単
なロシア語を駆使し、身
ぶり手ぶりを交えながら
場を盛り上げてきた。

交流が中断する今も脳
裏に浮かぶのは、四島を
追われた怒りをぶつける
のではなく、ロシア人に
歩み寄りながら望郷の念
を説明する元島民の姿だ。
「古里を愛する気持ち
は世界共通なはず。元島民
の思いが少しでもロシア
人にも伝わってほしい」
と願う気持ちだが、活動の
原動力になっている。

「久しぶり」が強み

交流ができなくなった
後も、本田さんは島への
関心の維持に奮闘してき
た。昨年には、北方領土

Check!

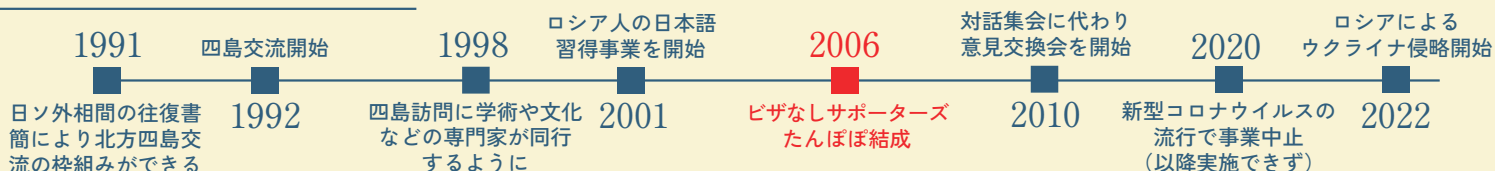
北方四島交流事業（ビザなし交流）とは？

旅券（パスポート）・査証（ビザ）なしで行われる、
日本人と北方四島に住むロシア人の相互訪問のこと。
北方領土問題解決の環境づくりを目的に1992年に開始
し、これまでに646回、24,488人の交流が行われています。
ロシアによるウクライナ侵略などの影響で、2020年
から実施できていません。

問題の啓発セミナーで根
室を訪れた道内の大学生
相手に講演。これまでの
活動を紹介し、「領土問
題解決には相手を理解す
ることが大切」と伝えた。
交流事業が再開したら
もう一度旗を持って港に
駆けつけ、ロシア人を出
迎えたい。「『初めまし
て』ではなく『久しぶ
り』と言えるのが、私た
ちの強みです」（取材・
川口実南）

北方四島交流インタビュ
は5回連載します。

四島交流 HISTORY

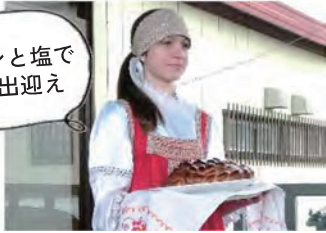


KEYWORD

キーワードで知る四島交流

word

訪問事業

パンと塩で
お出迎え

What's?

訪問事業とは、日本人が北方四島を訪問すること。島内施設の視察やロシア人家庭への訪問、日本人墓地の墓参り、スポーツや文化といった身近なことをテーマにした意見交換などのプログラムが組まれています。

これに対し、ロシア人が北海道本島などを訪れる事業を受入事業といいます。根室港に着いたロシア人をたんぼぼ（前ページ）のメンバーが旗で迎えます。

四島NEWS

四島で話題のニュースとぶち情報をお届け

北方四島へのデトックス旅 ロシアで販売開始

桜の開花シーズンに合わせ、ロシアで「北方四島へのデトックス旅」の販売が開始した。ヨガ教室や温泉浴などが組み込まれた一週間のツアーで、費用は14万ルーブル。※

※ 約23万8,000円（2025年3月13日時点）（2025年3月6日 サフ・オンライン）

知っ
とこ!

四島ぶち情報

自然豊かな四島

火山や奇岩など北方四島は自然豊か。温泉地も多く、交流事業ではよく択捉島のバンナチカ温泉を訪れました。

ロシアの観光開発

ロシアでは2022年、北方四島に進出する企業に対し税制を優遇する法律が成立しました。この制度を利用し、択捉島では2024年、ウタリ社がカムイコタン・ビューホテルを建設。

さらに同島では2027年、アトール社によるカフェを併設した15室の小型ホテルの建設が予定されています。

バンナチカ温泉 ▶

アルメニア風の建物で、チェス場やバーベキュー場も併設



不足する航空券

四島への観光客の増加により、島に住むロシア人の航空券が不足。この問題を受け、サハリン州政府は住民と観光客の航空券価格を差別化の方針を示しています。



＼再開に向け、今こそ知っておきたい／

四島交流まめ知識

～出発前、ロシア人は座る～

こんな経験
ありませんか？

荷詰めも終わり、いよいよ空港へ出発！と思ったら... さっきまで慌ただしく準備をしていたロシア人が「パシジム！（ちょっと座ろう）」と言い黙って座る。

ロシア人にとって「出発前に黙って座る」のは心を落ち着かせるための大事な習慣。「一度家を出た後に引き返す」のは良くないとも考えられているため、この間に忘れ物がないかも頭の中で確認しているのです。

Посидим!



\\再開したら
きっと役立つ! //

ぷち

ロシア語
単語帳

パエーハリ
Поехали!
さあ行こう!



▲ホームステイ（1993年 色丹島）

ユーリー・ガガーリンが1961年、初の有人宇宙飛行に飛び立つ際に放った言葉。瞬く間にブームになり、今でもロシア人の間でよく使われています。出発はもちろん乾杯の際にも使います。

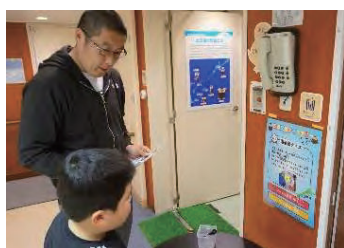
ロシアには乾杯のあいさつがたくさんあります。有名なものだと「ザ・ズダローヴィエ（健康のために乾杯）」や「ザ・フストレーチュ（出会いに乾杯）」。四島への訪問事業では、日本人訪問団員がロシア人家庭を訪れ交流を深めました。写真は事業が始まって間もない1993年の様子。まだ慣れない交流にお互い緊張しながらも「パエーハリ（Поехали!）」と乾杯する声が聞こえてきそうです。

Объявление

四島交流掲示板

839人が室蘭港に 四島交流船「えとぴりか」一般公開

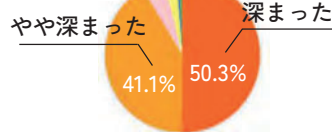
昨年10月12～13日、四島交流事業などで使用する船舶「えとぴりか」を室蘭港で一般公開しました。839人が来場。船内見学やクイズラリーに参加した小学生からは「四島へ行ってみたい」という嬉しい声もありました。



※来場者アンケートから抜粋

Q. 一般公開に参加して、北方領土問題（四島交流）への理解は深まりましたか？

A. → **90%以上**の人が
深まったと回答！



来場者の声

- ・コロナ禍以降の島の状況を紹介するイベントを開催してほしい。（20代男性）
- ・もう少しアピールして！多くの人の関心があることなのでこれからも続けてほしい。（60代男性）
- ・室蘭近郊では北方領土のことを知る機会がないのでよかった。（50代男性）
- ・クイズラリーをしながら船内をまわり理解が深まった。このように子どもでも楽しめるイベントだとまた参加したい。（40代女性）

四島交流に関する 写真展・セミナーを開催しました！

■ 北方四島交流等事業写真展

（in さっぽろ地下街「オーロラスクエア」：2024年10月22日～24日）

■ 北方四島交流理解促進セミナー

（in 北海学園大学 豊平キャンパス：2024年11月22日）

（in 別海町生涯学習センター「みなくる」：2024年12月7日）

ご参加
ありがとう
ございました



四島交流に関する取組はHPをチェック



編集後記

ビザなし通信をリニューアルしました。今後は交流に関するインタビューやコラムなど内容を充実させます！
ご意見やご感想、もちろん「ビザなし通信を送ってほしい」という声もお待ちしています！！（川口）